

第39回全国消防殉職者慰霊祭

第39回全国消防殉職者慰霊祭は、内閣総理大臣代理大沢内閣官房内閣審議官、総務大臣代理横田消防庁長官、防災担当大臣代理青柳内閣府政策統括官をはじめとするご来賓並びに新たに合祀された御霊のご遺族、全国消防関係者のご参列のもと、9月17日（木）ニッショーホールにおいて、執り行われました。

日本消防協会では、昭和57年以来、毎年、全国消防殉職者慰霊祭を行っており、本年は11柱の御霊が新たに合祀され、明治5年からの消防殉職者等の御霊は、5,773柱となりました。

例年であれば、約700名が参列しますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参列者の要請を控えさせていただき約200名と少なくして、様々な感染症対策を行いながらの実施となりました。式典では、内閣総理大臣、総務大臣及び遺族代表の「追悼のこトバ」をいただき、その後、参列者の皆様による献花が行われ、厳粛のなかに執り行われました。

現在の日本消防会館で開催される慰霊祭としては最後となります。



【式辞 日本消防協会 会長 秋本敏文】

今年も新たに11柱の御霊を合祀する全国消防殉職者慰霊祭をここに執り行います。ご遺族をお迎えするとともに、公務極めてご多忙の中をご来賓の皆様にご臨席賜りましたことに深く感謝申し上げます。

殉職事故のないように、日頃から関係者一同努力いたしておりますが、今年も消防防災ヘリコプター墜落事故による殉職等による新たな合祀がございました。それぞれ、非常の事態において、崇高な消防使命のもと、地域の皆さんの生命財産を守るため全力を尽くされたのであります。心から敬意を表し、深く感謝申し上げ、安らかなご冥福をお祈り申し上げます。ご遺族の方々には申し上げる言葉がない思いでございます。ひたすら平穏なご多幸をお祈り申し上げます。

近年、これまでとは様相が異なる大雨、台風等の災害が発生、社会経済の環境も変化するなか、全国各地で大規模な被害が発生しております。そのなかで、消防の使命は益々重くなっておりま

す。消防が地域の安全、国民の皆さんの幸せ確保のために必要な活動をするのが期待されますが、当然、そのためには消防の安全確保、殉職事故の防止が必要であります。このことを、私たちはこの慰霊祭の都度申しあげ、このことが殉職された方々の無念の思いに応える途であり、消防使命発揮、国民の皆さんの安全向上に結びつくものであると申しあげてまいりました。今後におきましても、そのことを一層強く思いながら、関係の方々と、一緒に努力してまいります。このことをあらためてお誓い申しあげます。

今回の慰霊祭は、新型コロナウイルス感染症防止策を考慮して、ご参列頂く方々を絞りに込むなど、通常とは異なる面がございます。また、近く新しい日本消防会館の建設に着手いたしますので、この会場における慰霊祭はこれが最後という特別の感慨がございます。私どもはそのようなことを思いながら、厳粛盛大な慰霊祭を執り行うよう誠心誠意努めてまいったところでありますが、最後に、新たに合祀する11柱と合わせて5,773柱となる御霊に対し、あらためて敬意を表し、深く感謝しながら、安らかなご冥福をお祈り申しあげ、式辞とさせていただきます。



秋本会長による式辞



平井副会長による開式のことば



御霊の奉納



内閣総理大臣代理 大沢内閣官房内閣審議官による追悼のことば



総務大臣代理 横田消防庁長官による追悼のことば



遺族代表による追悼のことば



秋本会長による献花



遺族代表による献花



内閣総理大臣代理 大沢内閣官房内閣審議官による献花



総務大臣代理 横田消防庁長官による献花



防災担当大臣代理 青柳内閣府政策統括官による献花



新合祀遺族による献花



参列者による献花



参列状況



江戸消防記念会による鎮魂の歌（木遣り）



秋本会長あいさつ



中島副会長による閉式のことば

